

## 第5回 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会 （議事録要旨）

日時： 平成28年4月28日（木） 午後6時30分～8時30分

場所： 中央区役所 8階 大会議室

議事次第：

1 開 会

2 議 題

(1) 「通いの場」のモデル事業について

(2) 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書概要（案）について

(3) その他

3 閉 会

<配布資料>

資料1 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会委員名簿

資料2 「通いの場」のモデル事業について

資料2-1 モデル事業ちらし（京橋地域）

資料2-2 モデル事業ちらし（日本橋地域）

資料2-3 モデル事業ちらし（月島地域）

資料3 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書概要（案）

## 出席者【委員】

川村 岳人	大分大学福祉健康科学部講師
高橋 恵子	聖路加国際大学研究センター准教授
鈴木 健一	中央区立敬老館統括館長
吉田 千晴	京橋おとしより相談センター管理者
八木 英之	社会福祉協議会在宅福祉サービス部推進課長
木村 和代	民生委員（京橋地域）
平賀 淳子	民生委員（日本橋地域）
立岩 絹子	民生委員（月島地域）
川端 武二	町会役員（京橋地域）
安西 暉之	町会役員（日本橋地域）
小倉 さなゑ	ほがらかサロン構成員
小川 京子	高齢者クラブ連合会役員
佐久間 保人	天空新聞製作委員会構成員
平林 治樹	企画部長
長嶋 育夫	区民部長
黒川 眞	福祉保健部長
古田島 幹雄	高齢者施策推進室長

（敬称略：順不同）

次第	発言者	議事の状況又は発言内容
1 開会	高齢者福祉課長	これより第5回中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会を開催いたします。  (委員の異動について紹介)
2 議題 (1)「通いの場」のモデル事業について	会長	議事に入ります。事務局からお願いします。
	高齢者福祉課長	配布資料の確認。
	高齢者福祉課長	「通いの場」のモデル事業について(資料2)説明。
	会長	「通いの場」に参加された委員の方3名に感想などをお話しいただきたい。
	委員	参加者に個別に感想を聞いたが、高齢者ばかりが集まる場所にはあまり興味がない、昼食前にお茶とお菓子をいただくと昼食がおいしくなくなる、いきいき館、高齢者クラブを利用すれば十分、歩けない方からは興味があっても参加は無理、という意見があった。
	委員	おとしより相談センターの方がいて、いろいろ相談に乗ってもらえることがよい。日時が決まっているのが残念。
	委員	敬老館に行けない方にはよい。閉じこもりの方が外に出やすいのではないかと。通いの場で元気になって高齢者クラブに参加してほしい。だれでも集まって通える場所をどんどんつくってほしい。
	会長	ただいまの報告や活動でご質問、ご意見等いただきたい。
	委員	お茶を飲みながら話すほか、絵手紙などもやっているのか。
高齢福祉課長	集まった方に意見を聞いて、内容を決めている段階である。	

(2) 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書概要(案)について

委員

ミュージカル、フォーク喫茶など、同じようなことを我々もやろうと思っている。居酒屋のダイユースなど、民間の施設を借りてやっていくのもひとつの手ではないか。いろいろな技術を持ったシニアを巻き込む。DMやメールで連絡をしたり、組織化のための地道な活動が必要である。

委員

社会福祉協議会でもみんなで一緒にお昼を食べる会などを実施している。似たような事業がいくつもあってよい。

委員

敬老館は利用者が大変増えており、ミニ敬老館、サテライト敬老館をたくさんつくってほしいという希望をもっていた。今後通いの場ができてくるのであれば、通いの場だけで完結するのではなく、そこで元気になった2～3人で敬老館のほうに行けるようにするとか、通いの場と敬老館との関係を密にしていく必要があると感じている。

委員

長年サラリーマンをやっていた人には、不特定多数を相手にした地域の催し、盆踊りとか、餅つき大会のときにまず声かけをして誘わないと、なかなか行きづらいのではないかと。

会長

この辺りで議論を整理すると、居場所を提供する事業はこれまでも区の中にあるが、似たような事業が複数あってもよい。

ミニ敬老館、サテライトの一助として、身近な場所にこういった通いの場があることに意義がある。

特定の人(ターゲット)にサービスを絞ると行きやすいのではないかと。

男性の孤立をどうするかということにも重なるが、男性が行きやすいような場にするための働きかけ、プログラムを今後検討していかなければいけない。

会長

事務局から資料説明をお願いします。

高齢者福祉課長

中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書概要(案)(資料3)説明。

会長	ご質問、追加したほうがよい方向性、各方向性についての具体的な取り組みなど、お一人ずつお話しいただきたい。
委員	いきいき館は、講座目的の利用者が年々増えているが、ゆっくり友達としゃべればよいという方も拾っていかなくてはいけない。いろいろな講座をやって人を集めるだけでいいのかと考えている。男性利用者も増えてはいるが、女性に比べ伸びが少ない。団塊の世代には経験を活かして講師役、先生役として活躍していただけたらと考えている。
委員	<p>認知症サポーター養成講座の参加者を最終的にはボランティアにつなげたいが、そこまではという方がいる。若い方も増えており、10年後、20年後に地域のことをどれだけ知っているか大切だと話している。</p> <p>おとしより相談センターには、中央区の文化財マップがもらえる場所、新聞で読んだ認知症予防の体操をやっている場所などの問合せもある。紙面で情報を伝えるのが大切。</p> <p>各おとしより相談センターで認知症の関連のサロンをやっているが、介護をしている人を連れてきてもよいことにするなど、介護者が出てこられるよう検討したい。</p>
委員	<p>空き家を開放して地域の居場所にする事例がある。中央区はいろいろな資源があるので、既存のものを生かす。区の高齢者食事サービスも発想を転換して、たまには外に食べに行きたいという人には補助チケットを渡すのもひとつの視点だ。人によって居場所、幸せ、生きがいは違うので、視点、照準をその人に合わせていくのが一番だ。</p> <p>若いうちから近隣の人間関係の和を広げていくところは、もっと若い世代に照準を合わせると、今小学校の父親が親父の会作ったりしている。そのようなものがあると、そのときのつながりが50代、60代、70代になったときにもある程度つながっていく。</p> <p>挨拶が自然に交わされる地域、雰囲気の良いまちづくりでは、オリンピック、パラリンピックもチャンスと思う。</p>
委員	絆というのは重要。人と人との密接なつながりが大事だと思う。

委員	<p>地域の掃除の機会を通じて、催しやおとしより相談センターについて情報提供し、男性もそういうところに入れるようにしていきたい。この間、新しくできたマンションに町会の総会のチラシを配布したら複数の方の参加があった。こちらからアピールしたことがよかった。高齢者にも目を向けて、いろいろとお話をしたりすることが一番大事なことでないか。</p>
委員	<p>うちの会では孤立、一人暮らしの方の参加について話し合い、できるところからやることになった。近所の公園の清掃について男性の参加がなければ難しいという口実をつくり、声かけをしたら、本当に出てきてくださった。遠慮するのもよくなかったと実感した。</p>
委員	<p>高齢者の居場所づくり、生きがいづくりとして、ミュージカルやフォーク喫茶などの様々な活動を行ない、シニアを元気にしていきたい。あとは、このような活動をどうやって高齢者に知らしめるか。重要な方向性として広報の観点も是非入れてほしい。</p>
委員	<p>腰が痛い、足が痛い、歩けない、人とお話ができないなど、とじこもっている人がだんだん多くなった。吹き矢、棒体操などへの参加を呼びかけているが、なかなか浸透しない。何回もお誘いして、後押ししながらやっていかなければいけない。</p>
委員	<p>小さなサロン、いきいき館、カフェ、そういうものがあちこちにいくつもあり、その中から自分が行ける場所を選ぶのが大事。外に行けなくなった方は、ケアマネジャー、ヘルパーが、ひとつのノートをつくり、その方が何に興味を持っているかを書き込み、どうサポートするかをまとめて、それを見ることで何かやれるのではないか。</p> <p>元気な高齢者は、サロンに参加して、当番や役割分担をすると、責任感も感じて奮い立つ。そこに来ることが楽しくなると思う。</p>
委員	<p>町会とふれあい福祉委員会と高齢者クラブの結びつきが非常に強い地域だが、集合住宅との乖離はなかなか埋まらない。</p> <p>おとしよりに対する気持ちは、リーダーの気遣いが非常に大事だと思う。細かいことまで気を遣って、お宅へ訪問することなど</p>

が非常に大事ではないか。

委員

町内に住んでいる若者が少ない。今、コミュニティづくりで頭が痛いのは、家族葬が増えていること。若い人がいなくなり、年寄りだけ残って、年寄りの面倒を年寄りがみて、結局、1人だけになって亡くなる。そんなことになる前に、おかしいなと思ったら、チェックをするようなことができないか。個人の所有、個人の権利と言っても、隣近所に迷惑をかけるような家を放っておいて、事故が起きてから騒ぐのではなく、起きる前に行政のほうでやっていただけるといい。

会長

施策の方向性に関して整理すると、4番目の元気な高齢者はボランティアなど支える側にまわる（役割・生きがい）というところは、ここでの議論を盛り込む余地が残されているのではないかと。それをどうやって、その人のスキル、能力、好みといったものを反映させて、その人にあった居場所をつくっていくかを検討する必要がある。不特定多数の方に対するメッセージでは、じゃあ行こうという気持ちにはなりにくいので、自分の役割がある、スキルや経験が活かせる、好みに合う、つまり主体的にあれがしたいと思えるような工夫が必要ではないか。

場所をつくったので来てくださいというだけでは男性は参加しないという話があったが、今までの議論を踏まえて4番目の方向性はもう少し違った表現にしてもいいのではないかと。

具体的な提案としては、情報を届ける工夫が必要という話があった。どうしたら必要な情報を届けられるかということは、居場所づくりと同等に、大事なことになるかと思うので、5つ目の方向性として加えることも検討していいのではないかと。

アンケート調査を実施した結果、男性、集合住宅、ひとり暮らし、暮らし向きに余裕がない、健康状態がよくない、こういった方々が孤立しやすいということがみえてきた。これも何らかのかたちでもう少し重要な方向性の中に反映させることはできないか。孤立、孤立状態をどう解消するかという視点も必要。多くの課題の中で優先的に取り組まなければならないものは何か、そのためにはどうしたらいいか。

委員

孤立しがちな男性は、コミュニケーション能力がどんどん落ち

	<p>ている。肉体的な衰えではなく、コミュニケーション能力の衰えがあるということはよく考えたほうがいい。</p>
会長	<p>協力したり、共同作業をする、自分だけで主張すると目的を果たせない。みんなで力を合わせて妥協点を見つけるとか、そんなプログラムが有効という示唆にもつながる発言と思う。</p>
委員	<p>男性は、交流の場で前に出るということがない。お酒が入ると、人が変わったように歌ったり踊ったりするが、いろいろな会でお酒を出すことは難しい。まずは交流の場に出てきていただいただけでもよかったかなと思う。</p>
会長	<p>出てくるだけでも、非常に大きな一歩だと思う。お酒以外にこういう工夫をすると男性がいきいきとする、会話を楽しめるといことがあれば、ぜひここで共有をしたい。</p>
委員	<p>ほがらかサロンでは、夫婦で来ている方はなるべく離れて座ってもらい、いろいろな方と接触できるようにする。趣味、何をやってきたか、会話の中から引き出して、質問して答えてもらうという会話の進め方をしている。そこに来て刺激を受けるからこそ、出てきてくださると思う。出てきてくださることがまず大事。</p>
会長	<p>ほかはいかがでしょうか。男性の参加を促す、あるいは参加をされたあとに会話を促すような取り組みがあればぜひ教えていただきたい。男性自身から自分のこととして話していただいても構わない。</p>
委員	<p>協働ステーション中央で、頼れる大人の会という会を毎月やっているが、おれはこんなことをやってきたと、好きなだけ自慢話をしている。自分のことだと結構しゃべれる方もいる。ずっと聞くのはつらいかもしれないが、しゃべる方は気持ちいいと思う。</p>
会長	<p>サロンに来ませんかではなく、あなたの自慢話を聞かせてくださいというような働き方も当然あり得る。方向性の4番目で、スキル、能力を踏まえた居場所づくりという話をしたが、自慢話は、これまでの人生の歩みをお話いただくことになる。その人のキ</p>



	<p>ヤリアや興味を地域とつなぎ合わせるヒントが引き出せる可能性が高い。</p> <p>それ以外の部分、アンケートでは、集合住宅、ひとり暮らし、暮らし向き、それから健康状態という視点からではいかがでしょうか。</p>
委員	<p>居場所づくりや通いの場も、基本的には外に出られる、動ける人を対象にしていると思うが、行けるのだけれども行きたくないという人よりは、本当に行けない人をどうするか。</p>
会長	<p>健康状態、経済状況に問題を抱えている方を念頭に置いた話だと思う。最も支援の手を必要としていながら支援の手が行き届かない人たち、行けるのだけれども行かないのではなくて、行けない人たち、緊急性が高く、事態の深刻性が高い、こういった方々に対しての、あるべき支援や周囲としてできることは何か。非常に重要なテーマなので、最後にご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>頑固な性格の方、片付けられない病気を持っている方の命をどうやって救うか。親族も、友人も、知人も、隣の人もわからないという方々がいる。ご家族がいても、どうしたらそこまでの状態になる前になんとかできなかつたかと思うことがある。いろいろな関係機関同士が横につながるのが今、現実的にできる方法だ。</p>
会長	<p>非常に深刻な問題で、特効薬があるわけではないが、センサーの網の目を細かくして、事態が深刻になる前に専門職にちゃんと情報が伝わるような仕組みが地域社会に求められているのではないかな。</p> <p>いろいろななかかわりをしている人がいても、情報が共有されていなければ、結局、有効な手立てが取られないことにもなりかねない。そういった場をどうやってつくっていくか。今日この場で解決策を提示するにはあまりにも重い課題なので、問題意識を共有したというところまでで、まとめとさせていただきます。</p> <p>副会長から、資料3に関してコメントをいただきたい。</p>
副会長	<p>居場所に関しては、空き家を開放する取り組みの提案などもありましたが、いろいろある中から自分に合ったもの、行きたいと</p>

ころを選んで行くというのも非常にいいと思う。

アウトリーチに関しては、外に出て行けなくなった時にこちらから声をかける仕組みが難しく、出て行きたくても出て行けない人たちをどう支援していくのか、という点が一番工夫していかなければいけない、考えていかなければいけないと感じた。

地域デビューに関しては、ミュージカルや親父の会など、若い頃から地域につながりをつくることによって高齢者になったときもつながりを生かしていけるといういろいろな提案があった。

方向性の中では4番目の役割・生きがいが一番重要かと思う。どうやって高齢者が役割を持ち、今持っている知識を生かしていけるか、皆さんのご提案があった。

あとは情報、どう知っていくか、どう知ってもらおうかということも重要だと思う。

一番最後に出てきた、関連機関との横のつながりという点について、一組織でその人を見るのではなく、全体でその人を見るというかたちで、みんなで連携するしくみが大事だと思う。

会長

私も方向性の4番目、追加で提案のあった5番目がとても大事になってくるという印象、感想を持っている。その方の強み、能力、好みを丁寧にしっかりと汲み取ろうという人が各地域にいる必要がある。それを一体どうやって確保するか。

今、その役割をやってくださっている方がいる地域もあれば、そういった方がいない空白の地域もある。まずは、そこを整理できるとよい。その方がしっかりと居場所までつなげる、それを組織的に支援することができないか。孤立を防ぐために丁寧に人にかかわる、こういった方々がボランティアというかたちなのかどうなのかということも検討しなければいけないが、必要と思う。

5番目にも関係するが、誘うときは生の声がいいのではないか。広報、新聞も有効だが、直接声をかける存在が必要。今申し上げたような存在の方が地域にいて、強み、好みを踏まえた上で、適切な居場所を紹介する。居場所が多様にできてくれば、そういった役割を担う方を地域の中にどうやって見つけ出していかうということもあわせて今後の課題になるのではないか。

次の開催日程等についてご説明をお願いいたします。

(3) その他

高齢福祉

今回は最終回で、6月23日(木)、6時30分からを予定してい

### 3 閉会

課長

る。委員の意見を反映させた報告書案を事務局で作成し、再度みていただいて、全体を通してご議論いただきたい。

委員には次回開催通知とともに、報告書案を事前に送らせていただくので、あらかじめご覧いただき、ご参加をお願いしたい。